

令和5年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 外国語活動・外国語科

改善の重点

- ① 単元の指導計画を作成し、言語活動を通して目指す資質・能力を育成すること。
- ② 単元の目標や評価規準を明確に設定し、指導と評価の一体化を図ること。
- ③ 目指す資質・能力を育成するために、1人1台端末（学習者用デジタル教科書）を効果的に活用すること。

1 設定理由

小学校学習指導要領第2章第10節外国語及び第4章外国語活動の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つ（第3・4学年は三つ）の領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。」と示されている。コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動を行い、単元を見通して資質・能力を育成することが大切である。

また、目指す資質・能力を確実に育むために、単元の目標を明確にし、児童に望む具体的な姿をイメージした上で評価規準を設定することが重要である。令和4年度「英語教育実施状況調査」において、CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定している学校は98.4%（R3:89.6%）、学習到達目標の達成状況を把握している学校は78.5%（R3:61.4%）となっており、「英語を使って何ができるようになるか」という視点からの指導が行われる状況が増えつつある。引き続き、児童の学習状況を適切に把握し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげていくことが求められる。

さらに、GIGA スクール構想の観点から、児童に資質・能力を育成するための、1人1台端末の効果的な活用が求められる。特に、外国語科においては、令和4年度から全ての5・6年の児童に学習者用デジタル教科書が提供されており、音声読み上げ機能や書き込み機能などを効果的に活用し、学習効果の高まりを期待することができる。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること

- ① 言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、具体的な課題を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすること。
- ② 各学校で設定する学年ごとの学習到達目標に基づき、具体的な児童の姿を想定した上で評価規準を設定すること。また、各時間の指導に当たっては、ねらいに合わせて児童の学習状況を適切に見取り、教師の指導改善や児童の学習改善につなげていくこと。
- ③ 指導の効果が高まる場面を見極めたり、指導者が意図をもって活用場面を位置付けたりした上で学習者用デジタル教科書を効果的に活用し、目指す資質・能力の育成につなげること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 小学校英語指導の手引き1、2、3（平成30～令和2年、大分県教育委員会）
- ② 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動（令和2年6月、国立教育政策研究所）
- ③ 小学校外国語・令和3年度学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業（文部科学省/Mext Channel 動画）

